



令和 7 (2025) 年 8 月 29 日

校長だより Vol.6

『同じ星を見て歩いていきましょう!』④ *Dream come true.* ~ 夢は正夢 ~

<その1> 生徒エージェンシー ~岐阜県立可児高等学校の取組~ から学ぶ

令和 7 年度東海四県高等学校長連絡協議会総会・研究協議会が 8 月 1 日(金)に、静岡市の「あざれあ」で行われました。先生方とこれまでも、『同じ星を見て歩きましょう。』と概念共有を重ねてまいりましたが、生徒の主体性を育み、自己肯定感を高めるといった共通の願いを実践されている岐阜県立可児高等学校の「教師が教える学校から生徒が学ぶ学校へ ~笑顔があふれる高校を目指して~」という発表があり、大きな共感と新たな学びの視点をいただきましたので、先生方に御紹介します。全容ではなく一部紹介ですので、詳細は別の機会にお話しできたらと考えています。

O
E
C
D
の
指
標

生徒エージェンシーは、生徒が自分の学習に対して主体性(エージェンシー)を持って取り組むことを指す概念です。これは単に「生徒が授業に積極的に参加する」ということだけでなく、生徒自身が学習の方向性を決めたり、学び方を工夫したり、学習の成果を評価することを含みます。国際バカロレア機構(IBO)は、生徒エージェンシーを以下のように定義しています。

「生徒エージェンシーとは、自分の学習に対するオーナーシップを持ち、そのプロセスに声、選択、およびオーナーシップを反映させる能力である」つまり、生徒エージェンシーとは、教師や大人に言われたことをこなすのではなく、生徒が自分の学習の主人公になることです。

なぜ、生徒エージェンシーが重要なのか?

可児高校は、共同エージェンシーを基にして、

『可児高版 事業で目標とする姿』を作成して全校で取り組んでいます。

現代社会は変化が激しく、将来何が求められるのかを予測するのが困難です。このような時代を生き抜くためには、指示を待つだけでなく、自ら課題を見つけ、解決策を探し、新しいことを学び続ける力が不可欠です。生徒エージェンシーは、そうした力を育む上で非常に重要な役割を果たします。具体的には、以下のような能力を育むことに繋がります。

共同エージェンシーの段階 (Student Agency for 2030)

0	沈黙	若者が貢献できると若者も大人も信じておらず、大人がすべての活動を主導し、すべての意思決定を行うのに対して若者は沈黙を保つ。
1	操り	主張を正当化するために大人が若者を利用し、まるで若者が主導しているかのように見せる。
2	お飾り	主張を助ける、あるいは勢いづけるために大人が若者を利用する。
3	形式主義・形だけの平等	大人は若者に選択肢を与えているように見せるが、その内容あるいは参加の仕方に若者が選択する余地は少ない、あるいは皆無である。
4	若者に特定の役割が与えられ、伝えられるだけ	若者には特定の役割が与えられ、若者が参加する方法や理由は伝えられているが、若者はプロジェクトの主導や意思決定、プロジェクトにおける自分たちの役割に関する判断には関わらない。
5	生徒からの意見を基に大人が導く	若者はプロジェクトの設計に関して意見を求められ、その結果について報告を受けるが、大人がプロジェクトを主導し、意思決定を行う。
6	意思決定を大人・若者と共有しながら、大人が導く	大人が進め、主導するプロジェクトの意思決定の過程に、若者も参画する。
7	若者が主導し、方向性を定める	若者が大人の支援を受けてプロジェクトを主導し、方向性を定める。大人は意見を求められたり、若者が意思決定しやすいように指針やアドバイスを与えたりするが、最終的にすべての意思決定は若者が行う。
8	若者が主導し、大人とともに意思決定を共有する	若者がプロジェクトを主導し、意思決定は若者と大人の協働で行われる。プロジェクトの進行や運営は若者と大人の対等な立場で共有される。

上
位
段
階

○**探究心と好奇心**: 自分の興味や関心に基づいて学習を進めることで、知的な好奇心が刺激されます。

○**主体性**: 自分で学習の計画を立て、実行することで、責任感と自立性が養われます。

○**問題解決能力**: 自分で課題を設定し、解決方法を模索するプロセスを通じて、実践的な問題解決能力が身につきます。

○**自己効力感**: 自分の力で目標を達成する経験を重ねることで、「自分にはできる」という自信(自己効力感)が高まります。

生徒エージェンシーを育む具体的なアプローチ

生徒エージェンシーを育むためには、教育現場でのアプローチを変え必要があります。(以下にいくつかの例を挙げます。)

○**学びの選択肢を与える**: 探究テーマ、学習方法、発表形式などを生徒自身に選ばせる。

○**対話を重視する**: 教師が一方向的に教えるのではなく、生徒の意見や考えを引き出すような対話を心掛ける。

○**プロジェクト型学習(PLB)の導入**: 生徒自らが課題を見つけ、グループで協力して解決策を探究する学習を取り入れる。

○**内省の機会を作る**: 学習のプロセスや成果について、生徒自身がふりかえり、次へと生かす機会を設ける。

○**環境の整備**: 生徒が安心して自分の意見を表現でき、失敗を恐れずに挑戦できる心理的安全性の高い学習環境を作る。

生徒エージェンシーは、これからの時代を生きる子どもたちが、自らの人生を豊かに生きるための土台となる考え方です。



＜その2＞ マンダラチャート ～夢を正夢にする行動～

仏教の中でも密教の世界観を表した仏画「曼荼羅（マンダラ）」からヒントを得た図を利用したフレームワークのことですが、大谷翔平選手は花巻東高校時代の監督佐々木洋氏からの教えにより、高校一年生の時に「目標達成シート」として作成しました。このシートは強い目標（夢）を中心に置き、周囲9×9の合計81マスに細分化した目標を書き込んだものです。大谷翔平選手は目標達成シートを作成する際、なるべく具体的に、また少し高い目標を書き込むようにしたと話しています。ひとつの大きな目標を達成するために必要な要素を細分化し「叶えたいこと」への道のりを確立していました。大谷選手が中心に書いた夢は「8球団からのドラフト1位指名」でした。

大谷翔平選手は目標達成シートに、中央の目標（夢）を達成するために必要な要素を8つ記入しました。

① 体づくり ② 人間性 ③ メンタル ④ コントロール ⑤ キレ ⑥ スピード160km/h ⑦ 変化球 ⑧ 運



体のケア	サプリメントを飲む	FSQ 90kg	インステップ改善	体幹強化	軸をぶらさない	角度をつける	上からボールをたたく	リストの強化
柔軟性	体づくり	RSQ 130kg	リリースポイントの安定	コントロール	不安をなくす	力まない	キレ	下半身主導
スタミナ	可動域	食事 夜7杯 朝3杯	下肢の強化	体を開かない	メンタルコントロールをする	ボールを前でリリース	回転数アップ	可動域
はっきりとした目標、目的を持つ	一喜一憂しない	頭は冷静に心は熱く	体づくり	コントロール	キレ	軸でまわる	下肢の強化	体重増加
ピンチに強い	メンタル	雰囲気になれない	メンタル	ドラ1 8球団	スピード 160km/h	体幹強化	スピード 160km/h	肩周りの強化
波をつくらない	勝利への執念	仲間を思いやる心	人間性	運	変化球	可動域	ライナーキャッチボール	ピッチングを増やす
感性	愛される人間	計画性	あいさつ	ゴミ拾い	部屋そうじ	カウントボールを増やす	フォーク完成	スライダのキレ
思いやり	人間性	感謝	道具を大切に使う	運	審判さんへの態度	遅く落差のあるカーブ	変化球	左打者への決め球
礼儀	信頼される人間	継続力	プラス思考	応援される人間になる	本を読む	ストレートと同じフォームで投げる	ストライクからボールに投げるコントロール	奥行きをイメージ

～夢は正夢～

現在の大谷翔平選手の活躍を語る上で、新人だった日本ハム時代の頃と、日本中のみならず世界を熱狂させたWBC時代の監督を務めた栗山英樹監督のことをお話しせずにはいられません。

～夢は正夢～は栗山英樹監督の座右の銘です。諦めてしまえばそこで終わってしまう。でも、諦めなければ夢はきっと叶う。栗山監督は、日本ハム時代の若き大谷翔平選手に前人未至の投手と打者という二刀流で育成することを貫きました。WBCでは、大谷選手をはじめとする日本人選手の大活躍に魅了されましたが、私が心底感動していたのは、まったく未知数だったヌートバー選手を起用したり、不調の三冠王村上選手を頑なに信

じ続けた姿勢など、超一流選手一人一人のハートを見事なまでに掴んでいた栗山監督の信念や人間性でした。高校時代から、自分の夢を叶えるためには、具体を掲げ実践することの大切さと思いを与えた佐々木洋監督。そして、その一つ一つを受容せずに追い求めてきた大谷翔平選手。類稀なるその才能をしっかりと見初めて、前例のない二刀流を実現させた栗山英樹監督。WBCが開催する直前の記者会見では、「翔平は世界一の野球選手になる。」と断言していました。

大谷翔平選手の獅子奮迅の大活躍はまさに序章であったかのように、ドジャースに移籍したその年に、長い歴史と伝統を誇るMLB史上でも、誰も成し得ることができなかった『50本塁打・50盗塁』を事も無げに一気に更新。最終的には、54本塁打・59盗塁を達成しました。名実ともに誰もが認める世界一の野球選手になり、今年も私たちに『夢』や『希望』を与え続けてくれています。これまで共有してきたフィードバックやバックカastingは、未来を起点として『夢』を実現するために必要な、モノ、手立て、順序、タイミングなどを、より鮮明にして具現化していく考え方です。西高の生徒の夢の実現に寄り添う有効な手段として、ぜひ参考としていってください。

